

○真下議員 日本共産党の真下でございます。

委員の皆さん、御理解いただきまして、ありがとうございます。

質問に入ります。

2008年10月、道などが主催したシンポでの北電によるやらせの事実が、8月26日の「しんぶん赤旗」報道と共産党道委員会の記者会見によって判明しました。その後、国主催のシンポにおいてもやらせが発覚したわけです。

やらせそのものが卑劣であるだけでなく、3号機の営業運転を目前にした時期に、北電の社長みずからが国民と国を欺いたことを北電はどう説明なさるのか、まず伺います。

○齊藤委員長 取締役副社長川合克彦さん。

○川合参考人 申しわけありませんが、質問の御趣旨をもう一度ちょっと説明していただけますか。

○真下議員 時間がないので、それはだめですよ。

社長がうそをついて、国民と国に対して、欺くような、うその説明をしたことを北電はどう説明するのかということをお伺いしたのです。そういう認識がないのですか。

○川合参考人 最初の国のシンポジウムに対する調査が不十分だったということに関しては、本当に申しわけなかったと思っております。

そのことに関して、佐藤が、これはこの前もちょっと出ましたですけども、意識して、虚偽の記載、虚偽のあれとか、そういうのを言ったというふうには考えておりません。

○真下議員 川合副社長自身は、どのように責任を感じていらっしゃるのですか。

○川合参考人 今まさに、第三者委員会で、これから、そういったことについての調査がなされると思いますので、その結果を見て判断していくことになると思っております。

○真下議員 副社長のその答弁では納得できないですね。

少なくとも、社長が説明したことがうそだったことがわかったわけですから、道民の負託を受けた道議会には、当然、社長が出てきて、謝罪をし、説明をすべきではないかと思っておりますけれども、なぜ来られないのか、理由をお聞かせください。

○川合参考人 先ほどと同じになりますが、今、第三者委員会で調査しておりますので、それに対して影響を与えないという観点から、今回、佐藤は出席しておりません。

○真下議員 参考人として道議会に来られない特別の事情が佐藤社長にはおありなのではないでしょうか。

2008年のやらせシンポ当時の北電の原子力推進本部長はどなたでしたか。

○齊藤委員長 電源立地部長濱谷将人さん。

○濱谷参考人 2008年当時は佐藤社長でございます。

以上でございます。

○真下議員 最も状況を把握している方ですよ。その方がなぜ来られないのですか。佐藤社長が、当時のことを全面把握して、そして説明する、説明責任を果たす、このことが当然求められるのじゃないですか。

○川合参考人 直接この場でというよりも、第三者委員会に、いろんなデータですとか、それから聞き取りがなされると思いますので、その中で結論が出されることと考えております。

○真下議員 そういった対応が、北電みずからが真相解明をしない、隠ぺいしているので

はないかというふうな不信を道民は募らせているわけです。

そこで伺いますけれども、1999年の泊原発やらせ工作は、北電広報部が作成を命じ、担当常務が了承し、社を挙げて世論誘導作業を秘密裏に行おうとしたわけですね。

しかしながら、このときの常務は、厳秘文書による指示は事業者として必要なこと、これからもやっていかなければならないと強弁をしております。この考え方というのは、今も社に残っているのではありませんか。

○齊藤委員長 総務部企業行動室長蔵田孝仁さん。

○蔵田参考人 先ほども申し上げましたように、その後も、コンプライアンス意識の徹底ということで努めてまいりましたが、その当時のことも含めまして、また、今回進めてきたコンプライアンス活動、こちらについても、どういったものかということも含めまして、今後、第三者委員会のほうに全面的に協力いたしまして、全容解明をしていきたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○真下議員 全く納得できません。

それでは、7月29日、北電のプレスリリースでは、情報提供は合理的範囲と表明しております。この合理的範囲と表明した情報提供の発信元はどこですか。

7月29日です。国に報告していますよね。部長も社長も確認しているのですから、おっしゃってください。

○蔵田参考人 申しわけございません。発信元というのは、どういう御質問でございましょうか。

○真下議員 メール発信元です。文書の発信元です。

○蔵田参考人 申しわけございません。もう一度、質問を……

○真下議員 情報提供した発信元です。

○齊藤委員長 常務取締役発電本部長酒井修さん。

○酒井参考人 恐らく、御質問の趣旨は、社員にメールで参加要請をしていたということではなくて、その前に経産省に報告した内容として、情報を関係箇所に情報提供していたということの御質問ですね。

○真下議員 ええ、そのことです。

○酒井参考人 それにつきましては、メールとかということではなくて、会議の場とかで、口頭で、こういった会合が開かれますよという話をしたということだというふうに覚えております。

以上です。

○真下議員 それには渉外課は含まれていなかったのでしょうか。また、8部署というのはどこでしょうか。

ここに書いてあるでしょう。

○蔵田参考人 まず、8部署という御質問でございますけれども、具体的に述べますと、本店の広報部、それから、同じく原子力部の原子力業務グループ、それから、原子力部原子燃料統括室サイクルグループ、それから、電源立地部総括グループ、原子力グループ、それから、泊原子力事務所渉外課、同じく広報課、それから、泊発電所の技術課ということで、こちらがグループ・課になってございます。

また、先ほどお話がありました、情報提供を行ったというところでございますけれども、これは、さまざまな課、本店も含め、あるいは原子力事務所を含めまして、先ほど常務からもお話がありましたけれども、各ミーティングあるいは打ち合わせ等々で、口頭で連絡を行っているということでございます。

以上でございます。

○真下議員 渉外課が含まれていますけれども、どうしてメールの発覚もなかったのですか、この時点で。

○蔵田参考人 この時点では、聞き取りあるいは業務書類の確認、それから、グループ I Dということで、メールのほうの確認をしてございますけれども、その時点におきましては発見できなかったということでございます。

以上でございます。

○真下議員 渉外課が関与していて、発見できないということはあり得ないわけですよね。全く隠ぺいしていると言わざるを得ないというふうに思います。

次に、道と国の関与についてなのですが、九電、四国電力、中部電力のプルサーマルシンポでの保安院の関与を、経産省の第三者委員会が認定しておりますけれども、北電に対しては、国からの示唆というのはなかったのでしょうか。

○蔵田参考人 現時点においては確認されてございません。

先ほども申し上げましたとおり、そういった、国もしくは道ですとか、そちらからの関与というところも含めまして、今後、第三者委員会のほうで、全容解明を含めてやっていきたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○真下議員 国や道からの示唆を仄聞したこともないですか。全員、お答えください。

全員、どうぞ。

○蔵田参考人 御質問、全員といたしますと……

○真下議員 参考人の方、全員に……

○蔵田参考人 我々、今……

○真下議員 ええ、参考人の方、7人の方、全員にお答えいただきたいと思います。

○蔵田参考人 まず、私からお答えいたしますけれども……

○斉藤委員長 それじゃ、濱谷部長。

○真下議員 せっかく答えようとしているのに、部長……

○濱谷参考人 議員の御質問にお答えいたします。

先ほど来申してございますとおり、ただいま、第三者委員会で調査しているところでございまして、我々の関係につきましても、その場で調査されることとなっておりますので、答弁は控えさせていただきたいと思っております。

○真下議員 それが、隠しているというふうに道民には映るわけですね。せっかくですから、そのくらいは答弁したっていいのじゃないですか。

○濱谷参考人 ただいまお答えしたとおりでございます。

○真下議員 北電の隠ぺい体質は変わっていないのだというふうに思います。

それで、最後に、泊発電所営業運転再開への影響について、数点伺います。

泊3号機建設が大問題となっていた2006年から2009年までの原子力推進本部長と泊原

子力事務所長の職にあった方はどなたか。

そして、その中で、知事に政治資金を提供していない人はいるかどうか、伺います。

○濱谷参考人 今回の質問にお答えいたしますが、ちょっと現時点では把握しておりませんので、申しわけございませんが、お答えできません。

○真下議員 委員長、後で報告してもらおうように、お取り計らいいただけないでしょうか。

○斉藤委員長 はい、わかりました。

○真下議員 当時の社長と常務で、皆さん、知事に政治資金を提供しております。後で調べて、御報告をください。

やらせ問題を既に3回も起こした北電ですけれども、今、公益企業としての資格が問われているわけですね。3号機に関して、承認や営業運転再開の判断を行う知事に、北電役員がこぞって資金提供するという事は、道義的にやめるべきではないかと思えますけれども、いかがですか。

○濱谷参考人 今おっしゃられた、献金でございますね。

○真下議員 はい。

○濱谷参考人 献金につきましては、会社としては把握してございませんので、お答えできかねます。

以上でございます。

○真下議員 そうおっしゃると思ったので、川合副社長に伺います。

副社長は、役員献金をしておられますけれども、おやめになりますか。

○川合参考人 私の政治信条といいますか、それに基づいてやっておりますので、今の状態を変えるつもりは特段ございません。

○斉藤委員長 なるべく今回の議題に沿って質問を願います。

○真下議員 営業運転再開の判断にかかわることだったので、質問させていただいたわけですけれども、公益企業として、役員全員が役職に応じて献金をしている企業というのは、北電さんだけなのですよ。こういった企業はありません。

そして、今回のやらせなものですから、3号機営業運転移行に絶妙のタイミングで、皆さんはセーフだと思ったかもしれませんが、私は、滑り込みでアウトだというふうに思いますよ。

泊3号機は、最初から、やらせの虚構の上につくられたものだというふうに疑念が深まるばかりで、こういった北電に、果たして、公益企業として原発の安全稼働が任せられるのかどうかという不安を道民は今感じているのだというふうに思います。

私は、3号機の営業運転は停止すべきであり、1、2号機の再稼働も見合わせるべき、そして、プルサーマルはもう中止すべきだということを決断することを求めたいと思いませんけれども、最後に、この質問で終わります。

○酒井参考人 御質問としては、3号機をとめて、1、2号機を稼働せず、プルサーマルを中止してはどうかという、御質問というより、御意見かなというふうに承りましたけれども、御質問に回答させていただくとすれば、現在、北海道の電気の40%は原子力で、泊の3台から供給しているということでございますので、こういった中で、原子力発電所というのは、十分必要な電源であるというふうに私どもは思っております。

以上でございます。